

追悼 中川大倫先生

理事長 藤田主一

日本応用心理学会名誉会員の^{なかがわだいりん}中川大倫先生におかれましては、2011（平成23）年12月23日にご逝去されました。享年93歳でした。ここに本学会を代表しまして謹んで哀悼の意を捧げます。

中川大倫先生は1917（大正6）年7月3日に千葉県でお生まれになりました。1944（昭和19）年9月に東京帝国大学文学部心理学科を卒業、東京都民生局主事の職を経て、1950（昭和25）年に信州大学文理学部講師に就任されました。終戦前後の激動の時期に心理学研究の道へ進まれたことは、先生



の心理学への熱い思いがことのほか伝わって参ります。1955（昭和30）年に信州大学文理学部助教授、1961（昭和36）年に信州大学文理学部教授に就任され、信州大学の機構改革に伴い1966（昭和41）年に文理学部教授から人文学部教授にられました。在職中には剣道部の初代部長として学生指導にもあたられました。また二度にわたり人文学部長の要職にも就かれ、その功績により1983（昭和58）年に信州大学を定年退職されると同時に名誉教授の称号を授与されました。同年、放送大学教授に迎えられ、1989（平成元年）に第1期の卒業生を見送ると同時に退職されました。放送大学の開学が1985（昭和60）年ですから、まったく新しい形の大学開学の準備という仕事に従事されたことになります。放送大学では、「社会心理学」「心理と教育」「心理学概論II」「認知と思考」などの科目（放送教材）を担当されました。中川先生の著書論文などの業績は多数ありますが、1961（昭和36）年に“Müller-Lyer illusion and retinal induction”の論文で医学博士の学位を取得されました。1990（平成2）年秋には勲二等瑞宝章を受章されています。

先生のご実家は富津市佐貫に位置する宗教法人浄土宗三宝山勝隆寺です。後年先生は父上君亡き跡を継がれて住職となられ、信州大学で教鞭を執りながらも檀家のために帰省し仏事を執り行われていたと伺いました。心理学者の中には寺院に関係する方がおられると聞き及んでおりますが、中川先生もその一人でした。

本学会では学会運営の中枢におられ、1964（昭和39）～1986（昭和61）年まで運営委員（現在の理事）、常任運営委員（現在の常任理事）を務められました。また、1963（昭和38）年10月5～6日に第30回大会が信州大学で開催されたときの大会会長（本学会会長）でした。この大会では、知能検査で著名なウェクスラー氏が特別講演をしています。先生の本学会への多大な貢献に際し、1987年（昭和62）年には本学会名誉会員に推戴されております。

中川先生の訃報に接し、先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。（合掌）